



SORAK Development Agency
Registered NGO: No:8726
UEB Zone, Church Road -Mullago, P.O Box, 71883 Clock Tower -Kampala; Tel:+256 703615225
Mubende Office: Lusitana TIC, 16km from Mubende Town along Mubende -Fort portal Road



NPO法人グローバルブリッジネットワーク
Global Bridge Network

生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業 (ウガンダ共和国)

活動期間：2019年4月～12月

活動：パリサ県の初等学校2校で生理用布ナプキン作成のトレーニングを実施した。

日時と場所

	日時	場所
1	2019年10月21日	オデュサイ初等学校
2	2019年10月22日	オパドイ初等学校

はじめに

SORAKはVisionary Lady Foundation (VLF)と協力し、またGlobal Bridge Networkからの支援を受け、オデュサイ初等学校とオパドイ初等学校で生理用布ナプキン作成のトレーニングを実施した。女子28名と男子12名の生徒が再利用可能な布ナプキンの作成トレーニングを受けた。また生徒達は、月経周期の教え方や生理中及び生理が終わった後の衛生管理について学んだ。

トレーニング/活動の目的

生徒達が月経時の衛生管理について正しい知識を身に付け、また生理用布ナプキンの作成方法を学習する事。

具体的な目的としては

- 女子及び男子が、布ナプキンの作成方法を学ぶ事。
- 女子が、生理を自分で管理できるようになる事。

参加者

場所	男子/他	女子/他	合計
オデュサイ初等学校	6名	14名	20名
オパドイ初等学校	6名	14名	20名

ファシリテーター

1. Visionary Lady Foundation (VLF)メンバー
-デージー・アルテュン：チームリーダー

-オナピ・スティーブン：ボランティア

-ニヤメラ・ベッティ：ボランティア

2. SORAK メンバー

-ムハンマド・ケユン：SORAK 代表

-シャミン・ナルワンガ：プログラムオフィサー

-ビオラ・ナカレンベ：プロジェクトオフィサー兼ボランティア

活動内容

下記の通り活動を実施した。

月経中の衛生管理に関するトレーニング

生徒達は、月経前、月経中、そして月経後の衛生管理について学ぶ事ができた。月経前の段階では、女子の体は生理の準備をしていて、排卵と共に痛みを感じる。この痛みを和らげるためには、たくさん運動をして体を温める事が大切である。また、生理中に使う下着とナプキンを準備すること。そして生理が始まったら、身体を清潔に保たなければならないので、最低でも一日に二回は体を洗い、出血が多くない場合でも一日に最低 3 回はナプキンを交換しなければならない。また、白湯を飲み、直射日光を避けたほうが良い。月経後は、身体の健康のために十分に水分、野菜、果物を摂り、運動をして体力をつける事を心がける。また下着は綿素材のものを選び、毎日洗って良く日光に当てて乾かしたものを再度着用すると良い。

一方、男子生徒は、生理中の女子をサポートしてあげるように教えられた。

生理用布ナプキンの作り方

生徒達に布ナプキンの作成方法を教え、生徒達の前で実際に生地を採寸・裁断する方法を実演した。

布ナプキン作成に必要な材料

1. やわらかいタオル/綿素材
2. 綿ネル生地
3. マッキントッシュ/ポリエチレン
4. ハサミ
5. マーカー/チョーク/鉛筆
6. 留め具/ボタン
7. 針
8. 糸
9. 定規/メジャー
10. 紙

生理用布ナプキン作成の手順

1. 必要な材料を準備する。
2. 平らな作業台に生地を置き、ナプキンの型を取る。
3. 自分の体に合うようにサイズ・長さを調整する。

4. ナプキンの形に生地を裁断する。
5. パーツを縫い合わせてナプキンを開じる。
6. ナプキンの一番表に綿の生地が出るようにする。
7. ミシン・もしくは針と糸を使って手縫いでナプキンを開じる事ができる。

写真



布ナプキンの裁断方法を参加者に実演



布ナプキン作成で使用する材料についてファシリテーターが説明



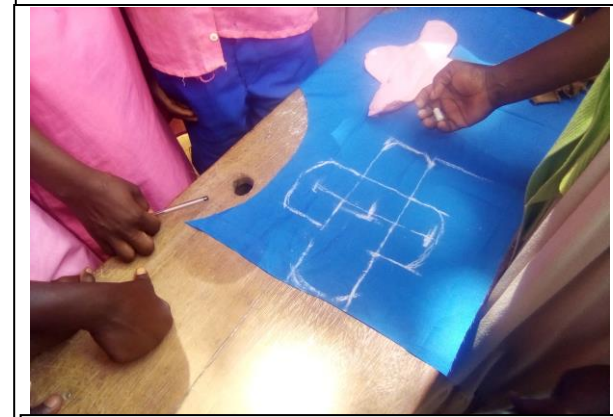
生徒が下着に布ナプキンをつける方法を実演



ナプキンの付け方の説明を手伝う男子生徒



綿の生地からナプキンの形に切り取りミシンで縫い合わせる



裁断前に綿の生地にナプキンの型取り

主な課題

1. 布ナプキン作成に必要な生地が足りなかった。
2. SORAK オフィスからトレーニング会場まで移動する際、道路状況が悪く安全が確保された道を通れなかった。

提案

1. 布ナプキン作成に必要な生地を購入しなければならない。
2. 継続的にトレーニングを行う事で、学校で立ち上げた月経時の衛生管理クラブの強化を図る。
3. 生徒達にナプキン作成方法を教える時に役立つ IEC (Information, education, and communication : 情報・教育・コミュニケーション) 教材を作る。そこには、布ナプキン作成を教えるのに効果的な、わかりやすい情報を記載する。
4. プロジェクター、テレビ、DVD を購入して布ナプキンの作り方を発表するときに使う。
5. トレーニングセンターを開設して、そこに生徒達が通って布ナプキンの作り方を学び、またナプキン作成の作業をできるようにする。

成果

女子生徒だけではなく男子生徒もプログラムの内容に興味を示して熱心に取り組み、例えば男子生徒が生理用ナプキンの使い方を実践してみせるのに協力してくれた。男子生徒は、女子生徒のサポートを続ける事、生理中の女子をからかって笑わない事、また周りの友人にも同様に伝える事を約束した。

Visionary Lady Foundation (VLF) からのフィードバック

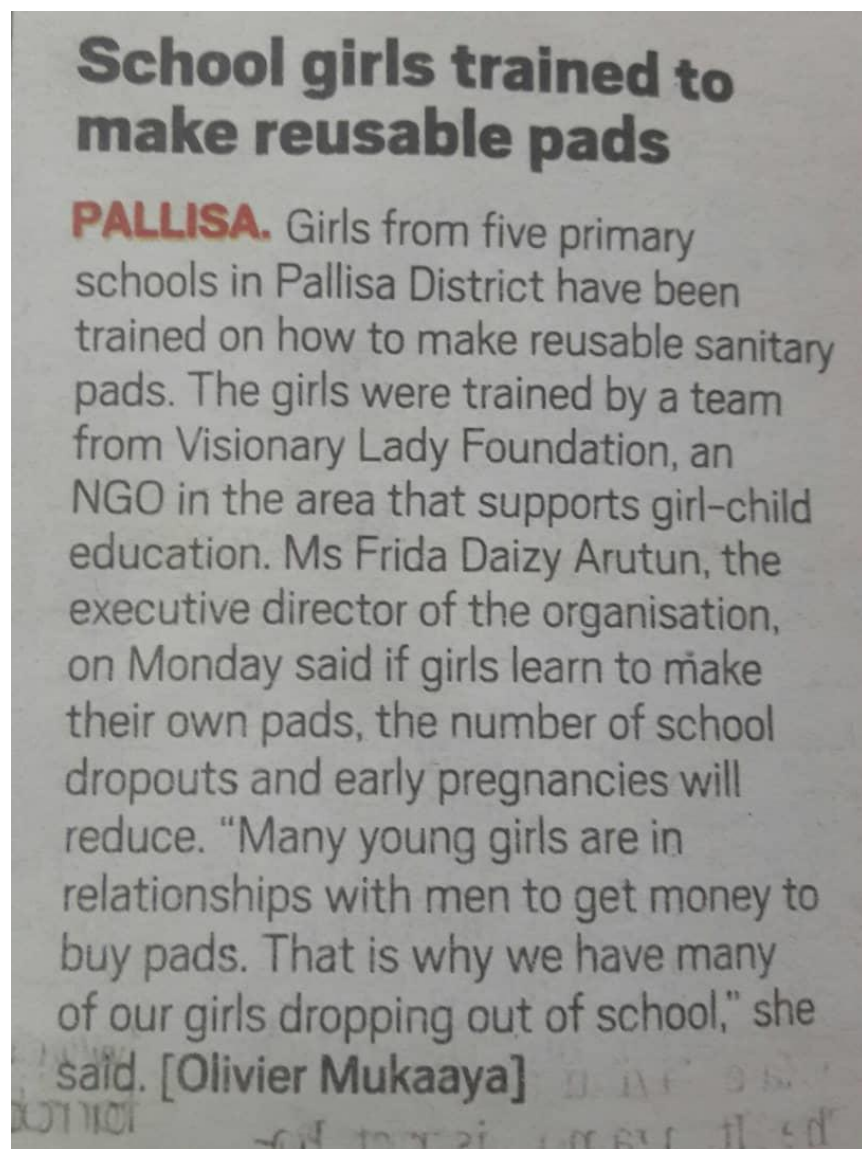
パートナーからのサポートを受け、学校でこのようなトレーニングを行ったのは今回が初めてであったが、本トレーニングを無事に終了する事が出来、大成功だった。布ナプキンについて豊富な知識とスキルを持っている SORAK と協力した事によって、実践的な実演を通して教える事ができた。このような協力体制の元でトレーニングを行う事で、より良い活動に繋がったと感じた。今後も学校で立ち上げた衛生管理クラブと共に能力強化を図り、布ナプキン作成のみならず、性と生殖に関わる健康と権利 (リプロダクティブ・ヘルス・ライツ) についての知識も引き続き指導していきたい。また、VLF のオフィスの敷地内にトレーニングセンターを開設して、周辺の複数の学校の生徒がそこに通って布ナプキンの作成について実際に学べる環境を作っていく予定である。この様に生徒達にナプキン作成方法を教えていけば、今後もプロジェクトの持続性が確保されると考える。

コミュニティの住人も、子ども達が布ナプキン作成のトレーニングを受けた事を非常に喜んでいた。また、教員も喜んで一緒に布ナプキンの作り方を学んでいた。オパドイ小学校の校長は、今度も衛生管理クラブが布ナプキン作成を始められるように生地を購入する事を約束してくれた。

準郡及び政府の役人であるエルワナ・マイケル氏は、私達が学校の子供達にナプキン作成を教えた事を喜んでいて。また、このように学校の女子にトレーニングを実施する取り組みはパリス県でも今回が初めてであり、今後も、ただ既製品のナプキンを与えるのではなく、子ども達が自らの力でナプキンを作れるように Visionary Lady Foundation (VLF) にトレーニングを続

けて欲しいと言っていた。そうする事で、人々はただものを与えられるのを待つという受け身の姿勢でなくなり、活動の持続性を確保する事ができる。マイケル氏は、子ども達のより良い生活のために、今後も私達に協力してくれる事を約束してくれた。

2019年10月20日、それぞれの学校で実施したトレーニングについて、Daily National Newspaper の新聞にオリビエ・ムカアヤ氏により記事が掲載された。これは、コミュニティの人々がトレーニングを実施した事を喜ばしく思ってくれた証拠である。下記新聞記事を参照。



＜記事の和訳＞
学校の女子生徒へ
布ナプキン作成トレーニング

パリサ県にて、初等学校 5 校の女子生徒が布ナプキン作成トレーニングを受講した。女子の教育支援をする地元の VLF が実施した。代表のディジーによると、女子が自分で生理用布ナプキンを作れるようになれば、学校の中退や早期の妊娠が減少するとのことである。「多くの若い女の子がナプキンを購入するために男性と関係を持っている。だから、多くの女子が学校を中退してしまう現象がある」と語った。

結論

布ナプキン作成のトレーニングは、今回訪問した学校にすべてを快く受け入れられた。また、それぞれの学校の校長は、衛生管理クラブの子ども達が布ナプキン作成に継続的に取り組めるように支えると同時に、月経時の衛生管理についても教えていくと約束してくれた。